

令和5年10月1日

学校法人 西鉄学園
西鉄自動車整備専門学校
校長 椎葉 小夜子

「自己評価及び学校関係者評価結果（令和4年度版）」 報告

学校法人西鉄学園 西鉄自動車整備専門学校では、令和4年度の自己点検・自己評価を実施し、本校規程に基づき学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここに学校教育法施行規則第189条に則して「自己評価及び学校関係者評価結果（令和4年度版）」を公表いたします。

学校関係者評価委員会からのご意見を真摯に受け止め、教育力の更なる向上、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参ります。

今後とも、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■学校関係者評価委員

		氏名	所属等
企業・団体	自動車業界	井上 皓介	トヨタカローラ福岡株式会社 総務部 人事グループ グループ長
		石丸 淳一	トヨタカローラ福岡株式会社 サービス部 技術グループ グループ長
	業界団体	寺崎 浩二	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部 部長
	教育有識者	平野 孝幸	高等教育有識者 (高等学校校長経験者)
	卒業生	松尾 哲也	日産福岡販売株式会社 サービス本部 HITEQ センター 課長代理
事務局 (学内)		椎葉 小夜子	理事・校長
		目原 宏輝	教頭
		浅井 朋晃	総務・学生課 係長
		森田 悠暉	教務・就職課

西鉄自動車整備専門学校 自己評価及び学校関係者評価結果(令和4年度版)

令和5年10月1日公開

評価項目	自己評価	学校関係者評価
<p>(3) 教育活動</p> <p>-----</p> <p>○教育目的・目標に沿った教育課程</p> <p>○教育課程について、外部の意見の反映具合</p> <p>○資格・要件を備えた教員の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの抜本的な変更により内容ごとに学科授業・実習を連携させ、より学生が学習に取り組みやすい環境を推進している。 業界の協力を仰ぎ授業の内容に反映しているが、学生が興味を持って取り組めるよう指導方法を模索していくことが必要。 企業との連携により現役メカニックによる実習指導、出向の受入れを行っている。今後もより多くの企業との連携を構築していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の学習意欲を高めるために、学習の全体像の提示を行ってほしい。全体像を理解させ、自分自身で学習の進捗度合いを把握できるようにすることが重要。現在の部分を学習しており、この先どのように繋がっていくのか、学生が迷わないように配慮し、丁寧に対応していくことも大切である。 新入社員に対する導入研修等で、受講態度が好ましくない新入社員が散見されるようになった。学ぶ姿勢は学校での授業中の態度にも表れると思うのでしっかり指導することを望む。 現役メカニックによる実習指導は非常に良い取り組みである。若いメカニックであれば、学生と年齢が近い分、学生の気持ちに寄り添えるので望ましい。教育内容の構築においては、企業と学校の連携がより重要となる。卒業生の活用も学校の活性化に繋がる。
<p>(4) 学習成果</p> <p>-----</p> <p>○資格・免許取得率向上への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> レベル別のクラス編成により、レベルが低い学生には補習や個別指導を行っている。卒業後、試験日までの期間に学習へ取り組ませることが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスメイトがライバルとしてではなく、仲間としての存在であることが望ましい。仲間として全員で就職や資格取得に助け合って取り組める雰囲気が必要であり、そのような雰囲気を作ってほしい。
<p>(5) 学生支援</p> <p>-----</p> <p>○退学率の低減</p> <p>○留学生に対する相談体制の整備</p> <p>○学生の経済的側面に対する支援体制</p> <p>○学生の健康管理を行う体制</p> <p>○卒業生への支援体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目指す業界への興味を持ち続けさせることが課題であり、企業と連携して社会に必要不可欠である職業であることや、現状・今後の動向を知らせることで興味を持ち続けさせる取り組みが必要。 外国人留学生に対応できる体制の更なる整備が課題であり、ヒアリング等によって留学生のニーズを把握し改善につなげる。 留学生の学費支払いの遅延が課題であり、学生課より早い段階から支払期限確認の指示を出し準備をさせている。 夏期の熱中症予防として、情報の掲示や日々の注意喚起を行っている。 早期離職防止を目的に卒業生の就職先企業に協力を要請し、卒業生を集め座談会を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が学校に入ってどのような目標を持つか考えさせることが必要ではないか。小さなものでも目標を持つことで学習への興味・意欲が湧いてくる。目標が定まっていない学生については、サポートを十分に行い、学校生活がより充実したものになるよう促していくことが必要。 留学生の相談には適切に対応していく必要がある。また、留学生は同じ国の学生同士で集まりがちなので、異なる国の学生同士での集まりが多い方が日本語を使う機会が増え日本語でのコミュニケーション能力も高まる。そういった機会の促進にも取り組んでほしい。 入学当初に学費支払いの義務と優先度について、しっかり認識させておくことが必要。最近の若者は、金銭管理が弱くなっている。自身の収支がどのような状態にあるのか、一度考えさせてみることも有効と考える。 店舗によっては水分補給の時間を決め、一斉に水分補給を行う取り組みを実施している。行動させることにより熱中症予防の意識付けをすることも重要。 現状の取り組みを継続させてほしい。
<p>(6) 教育環境</p> <p>-----</p> <p>○インターンシップ実施体制の整備</p> <p>○学内における安全管理体制の整備と適切な運用</p>	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ前には事前教育を行い自己目標の設定及び実現に向け動機づけを強化している。しかし、インターンシップ後に自身の課題を意識させ学校生活に反映させることが課題であり、振り返りの取り組みを強化し課題解決に向けた行動を意識させることが必要。 実習での作業時の作業グローブ着用の義務化や作業終了後の安全に関する振り返りの実施によって、安全意識の醸成を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の現場では安全に関することは最優先で取り組んでおり、声出し等徹底している。インターンシップでは先輩エンジニアに付いて補助的な作業に臨むと思うので、コミュニケーション(返事や受け答え)がしっかりできるよう事前に教育しておいてほしい。 安全への取り組みは非常に重要。企業でも重要課題として取り組んでおり、学校でもしっかりと指導に当たってほしい。

<p>(7) 学生の募集と受入れ</p> <p>-----</p> <p>○高等学校等接続する教育機関への情報提供の取り組み</p> <p>○学生募集の適切かつ効果的な実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校等の教職員を対象とした学校見学等を実施し、学校の理解を深めてもらう様な取り組みを行っていく。 ・ 小学校・中学校への広報活動を行い、出張授業等を実施することで子供たちに自動車業界への興味関心を持ってもらい将来の自動車整備士の確保を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の理解を促進する手段として、技術コンクールの実施がある。実施することにより、専門学校教育の理解も深まると思う。 ・ 企業との連携は、相互協議のうえ企画立案し、展開していくことが望ましい。企画した内容については、ホームページ等で公開し、応募できるしきみを作るなど、広く周知させて気軽に問い合わせができる環境を作ることが重要。
<p>(9) 法令等の遵守</p> <p>-----</p> <p>○法令等を遵守し、適正な学校運営を行っているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通ルールの遵守、マナー徹底の指導を毎朝行い、違反者に対する再教育を継続して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バイク乗車時のマナーを徹底させる必要がある。迷惑行為が及ぼす危険性を認識し、常にルールを守るということを継続して指導していくことが大切である。
<p>(10) 社会貢献・地域貢献</p> <p>-----</p> <p>○学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車整備業界の仕事を幅広く認知してもらうための活動や面白さを体感してもらうイベント等を継続して実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生が挑戦するものづくりコンテストの会場として提供することも社会貢献に繋がる。学校を知ってもらう良い機会にもなる。